

「良いコーチに
出会いたいなら、
儲けてもらえ。」



疑念の物語

「どうせ、コーチの金儲けでしょ」

中身を確認めず、学ぶ機会を遠ざける。



犠牲の物語

「献身的なコーチだから正しい」

善意と持ち出しに依存し、本質を見誤る。

どちらも、自分がつくった
「都合の良い物語」に過ぎない。

矛盾する欲望

安く教えて
ほしい

+

最大限に
成長させて
ほしい

=



自分の努力より、コーチの「自己犠牲」を当てにしていらないか。



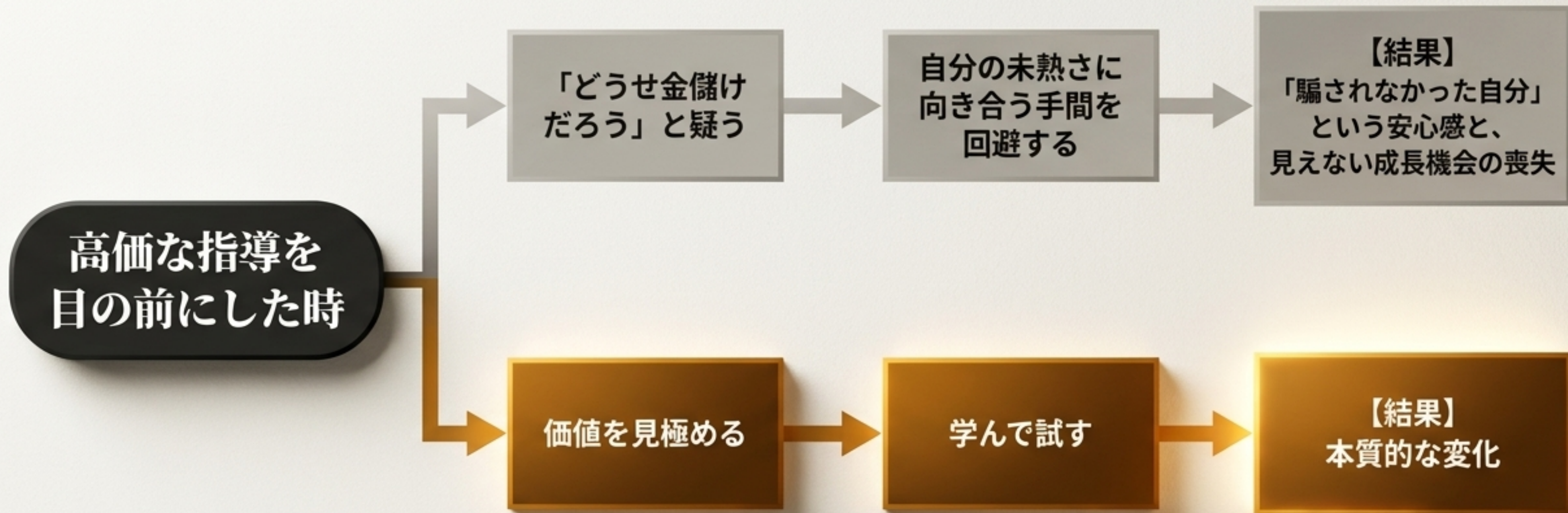
その仕事を、
善意と持ち出しだけで
続けてもらうことを
前提にしてよいのか。

「私のように、
私財を投げうって、
コーチをするという
形態は、
健全ではない。」

— シン



自分のやり方を美談にし
て終わらせない責任。
自分にはできても、それを
「次の指導者」に要求すれば、
指導の未来は潰れる。



相手の動機を想像するだけで、
自分の可能性に蓋をしてはいけない。

	消費者：疑念型	消費者：美談型	共創者：未来型
判断基準	コーチの懐事情	コーチの自己犠牲	払う対価以上の価値
隠れた本音	傷つきたくない	安く済ませたい	共に成長したい
未来への 影響	機会の喪失	次世代の枯渇	良いコーチの存続

その姿を見た誰かが
「自分も指導者になりたい」
と思える未来



あなたの指導には価値がある。

この矛盾を、自分は抱えていないか。これは受講者の誠実さが問われる話だ。
「あなたに教わりたい」と願うなら、「あなたが教え続けられること」まで願いたい。

でも、あなたが十分に 報われることは望まない

良い指導者を探すだけでは、 足りない。

良い指導者が続けられる世界を、
受講者も一緒につくるのだ。

良い指導で、十分に儲けてください。長く続けてもらいたいから